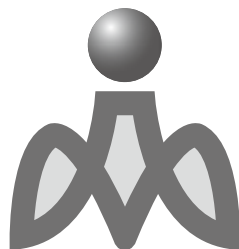


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成30年7月～9月実績〕
〔平成30年10月～12月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 164企業 (3) 回答企業数 164企業

2. 調査対象期間

第2四半期 平成30年7月～9月期 「調査時点：平成30年9月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	1	6
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	52	164

5. そ の 他

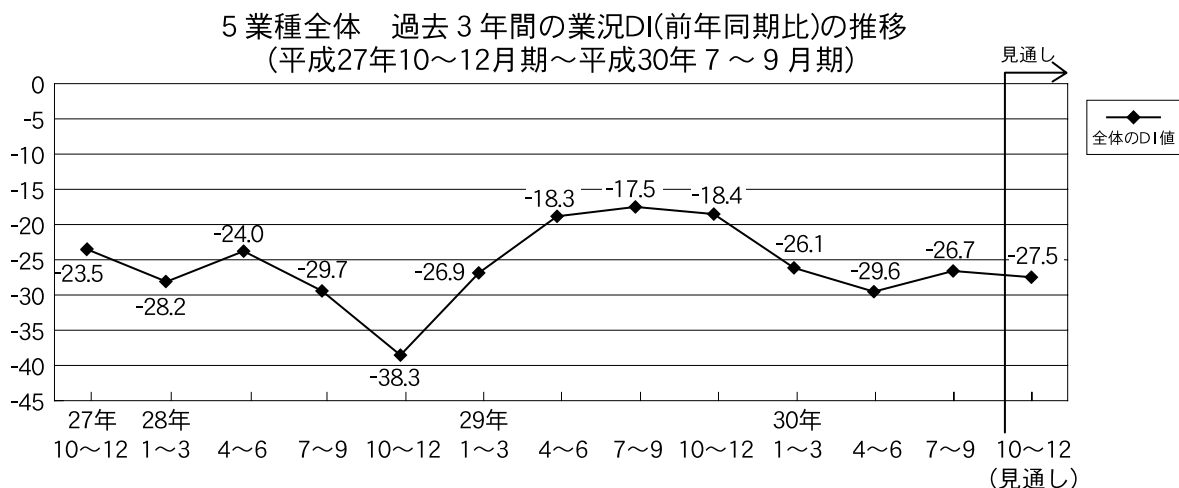
①本報告書のDIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ285サンプルによるものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

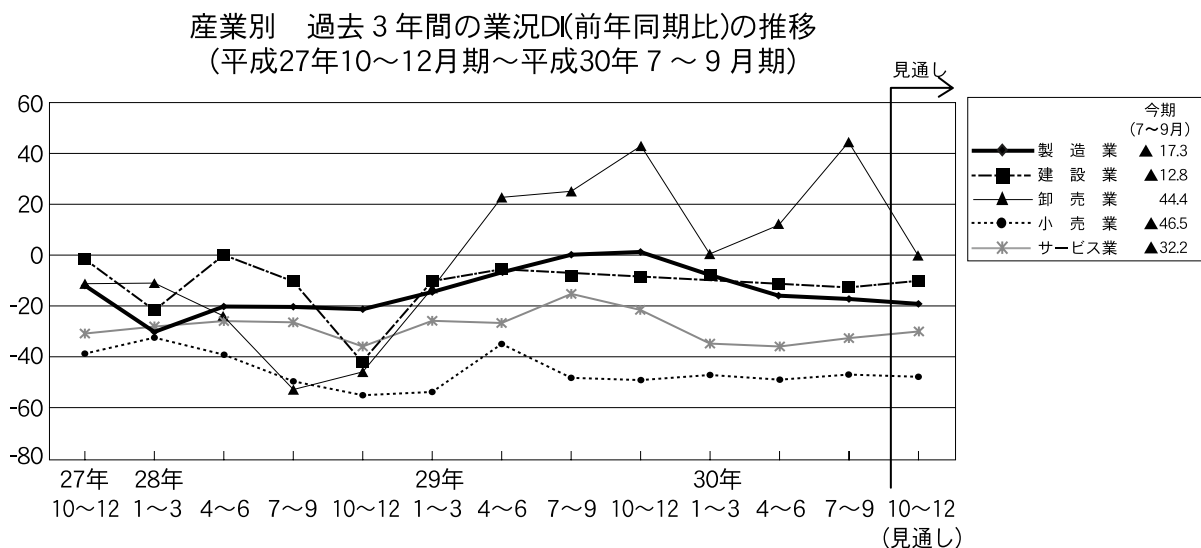
今期の業況判断D Iは、▲26.7と前期比で2.9ポイント改善している。
来期については、▲27.5とやや悪化する見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

卸売業が44.4と前期比で33.3ポイント、小売業が▲46.5と前期比で4.2ポイント、サービス業が▲32.2と3.1ポイント改善している。一方、製造業が▲17.3と前期比で0.2ポイント、建設業が▲12.8と前期比で2.3ポイント悪化している。

来期は、建設業、サービス業が改善見通しである一方、製造業、卸売業、小売業が悪化見通しである。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象164企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた285サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

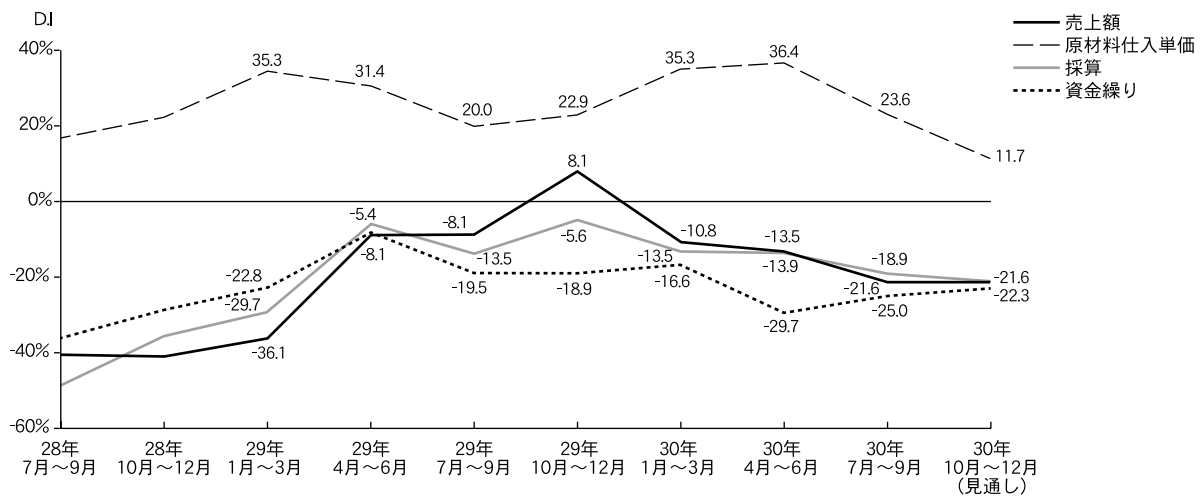
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲21.6と前期比で8.1ポイント悪化している。来期は▲21.6と横ばい見通しである。原材料仕入単価D Iは、今期は23.6前期比で12.8ポイント低下（改善）している。来期は11.7と更に低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲18.9と前期比で5.0ポイント悪化している。来期は▲21.6と更に悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲25.0と前期比で4.7ポイント改善している。来期は更に▲22.3と改善する見通しである。

今期は、原材料仕入単価、資金繰りD Iが改善した一方、売上額、採算D Iが悪化している。来期は、採算D Iを除いて改善、または、横ばい見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－

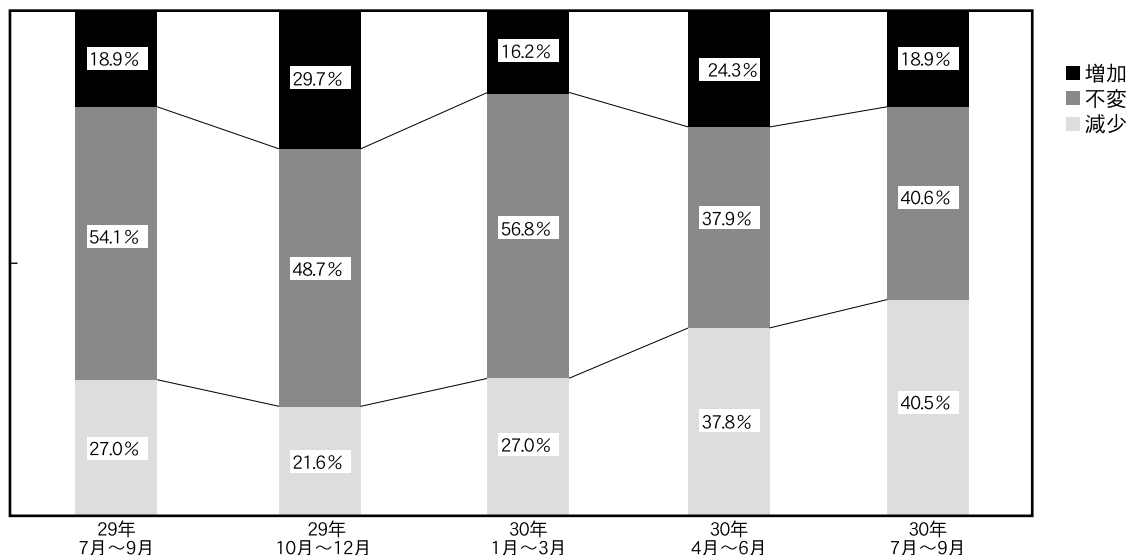


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社）

「増加」と答えた企業の割合は、18.9%（7社）と減少（前期比▲2社）している。「不変」は40.6%（15社）と増加（前期比+1社）、「減少」は40.5%（15社）と増加している（前期比+1社）。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



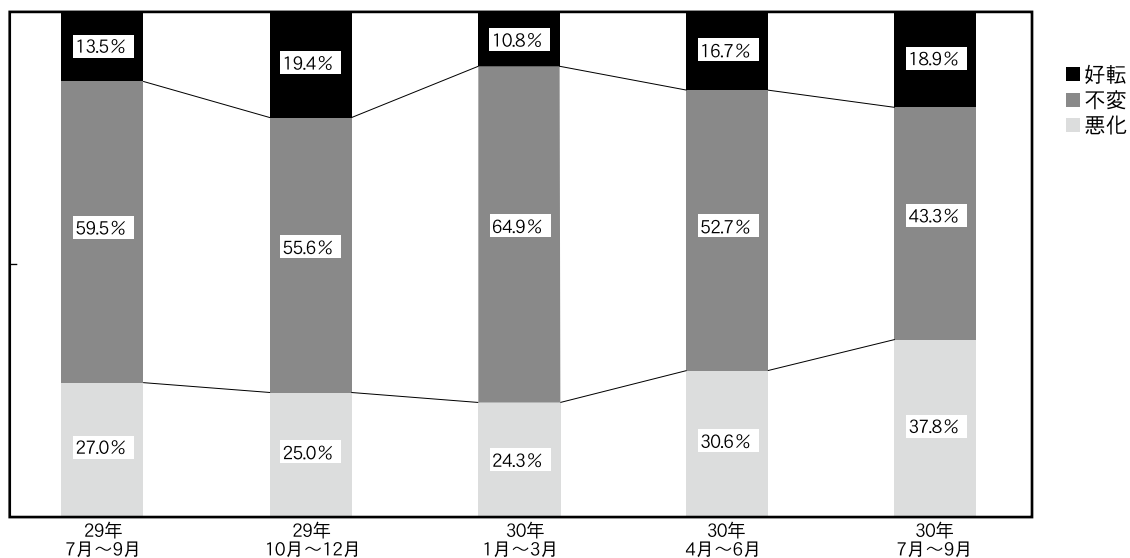
② 採算（採算D I の内容（回答企業数37社（前回36社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、18.9%（7社）と増加している（前期比+1社）。

「不変」は43.3%（16社）と減少（前期比▲3社）、「悪化」は37.8%（14社）と増加している（前期比+3社）。

山梨県 製造業 採算の状況—前年同期比—

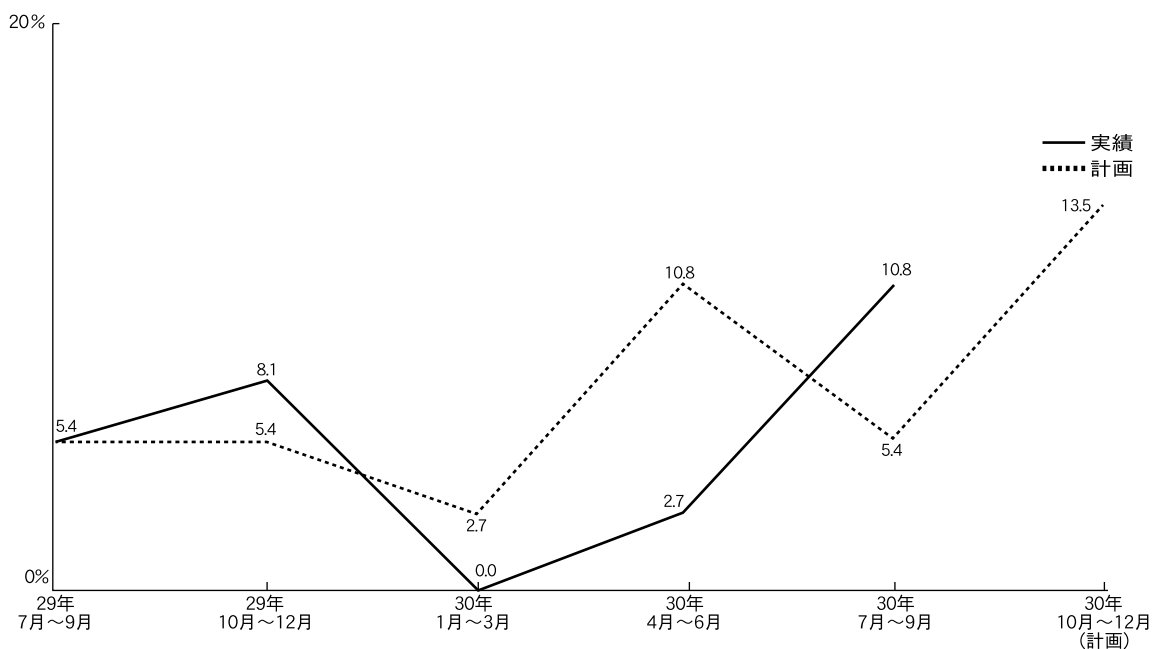


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は10.8%（4社）であった。その設備投資の内容は、「生産設備」、「車両・運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」が1件ずつになる。

来期の計画については、13.5%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が5件、「工場建物」、「車両・運搬具」が1件ずつになる。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数32社）

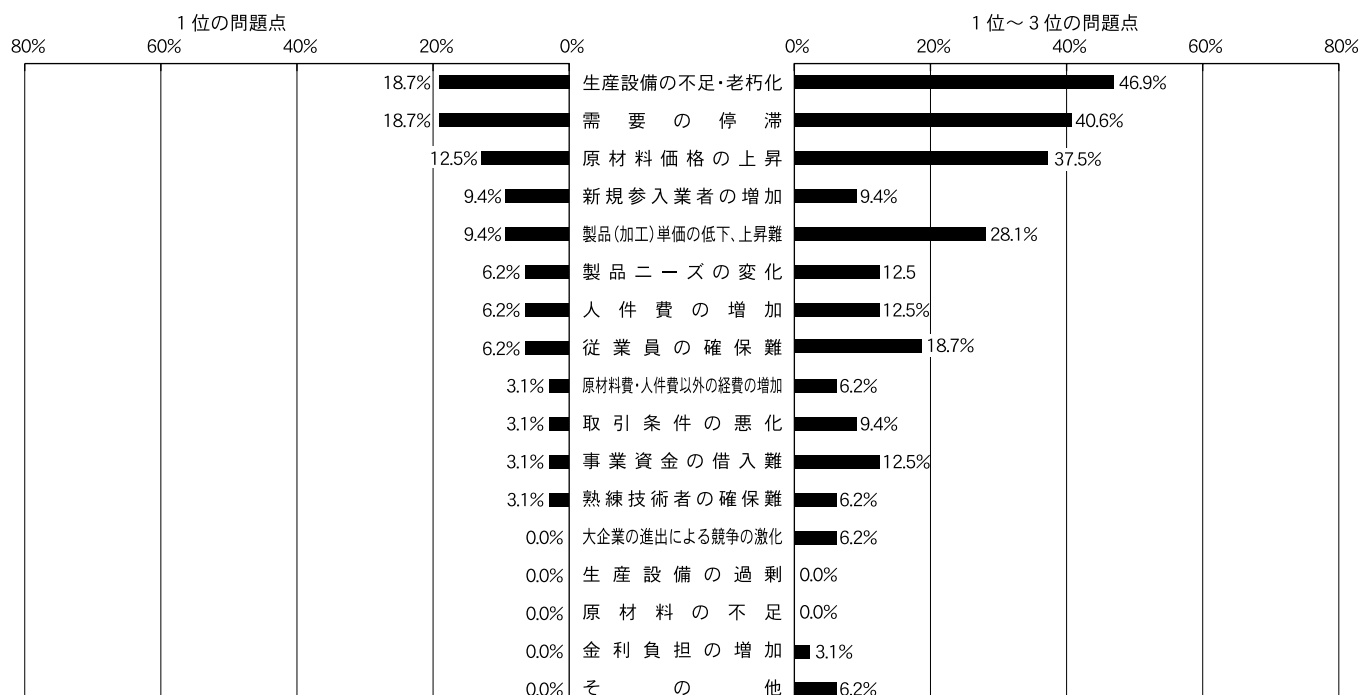
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「生産設備の不足・老朽化」、「需要の停滞」の18.7%（6社）であり、2番目は、「原材料価格の上昇」の12.5%（4社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「生産設備の不足・老朽化」の46.9%（15社）であり、2番目は、「需要の停滞」の40.6%（13社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	16.2
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	2	5.4
一般機械器具製造業	14	37.8
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	0	0.0
その他製造業	4	10.8
合計	37	100.0

従業員規模別

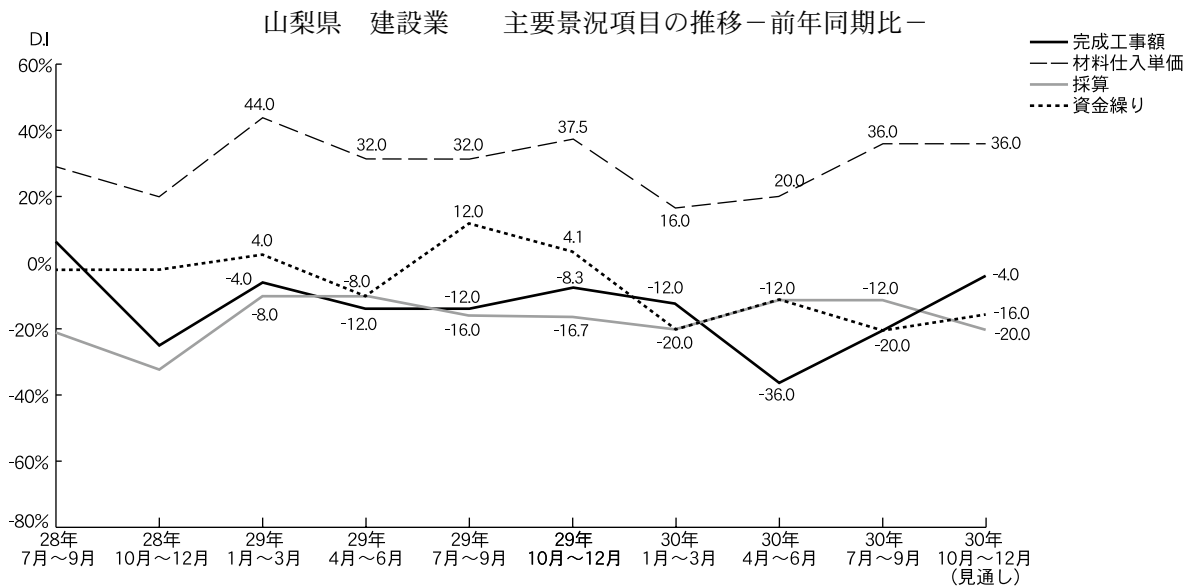
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	22	59.5	18	48.6
3人～5人以下	6	16.2	5	13.5
6人～10人以下	6	16.2	10	27.0
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期は▲20.0と前期比16.0ポイント改善している。来期は▲4.0と更に改善する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は36.0と前期比16.0ポイント上昇（悪化）している。来期は横ばい見通しである。採算D Iは、今期は▲12.0と前期比横ばいとなっている。来期は▲20.0と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲20.0と前期比8.0ポイント悪化している。一方、来期は▲16.0と改善する見通しである。

今期は、完成工事額D Iが改善している一方、材料仕入単価、資金繰りD Iが悪化している。来期は、採算D Iを除き改善、または、横ばい見通しである。

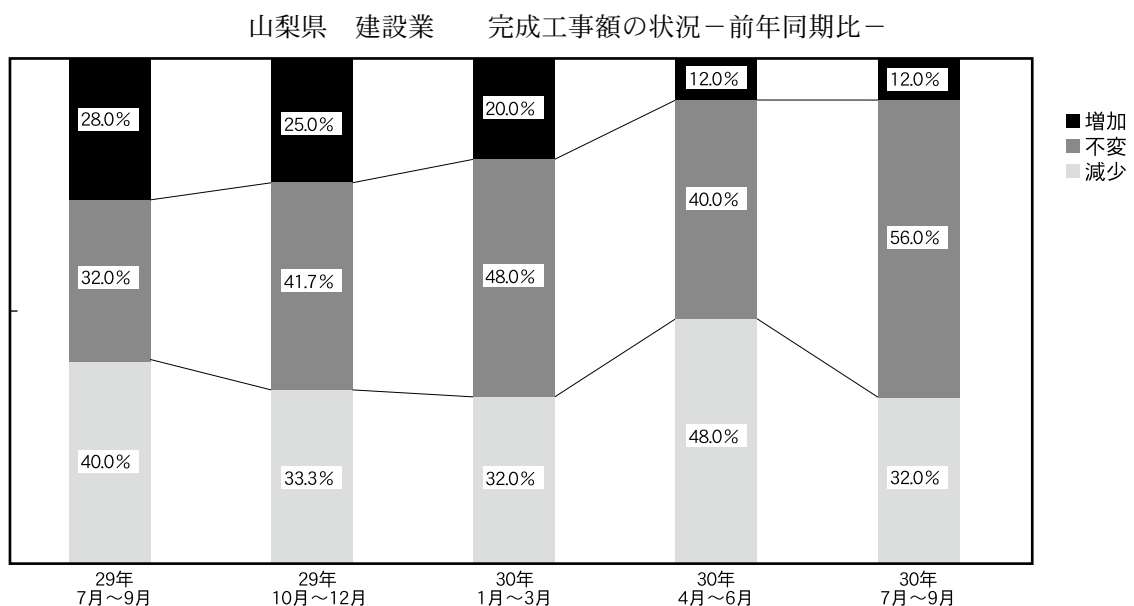


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、12%（3社）と横ばい。

「不変」は56.0%（14社）と増加（前期比+4社）、「減少」は32.0%（8社）と減少している（前期比▲4社）。



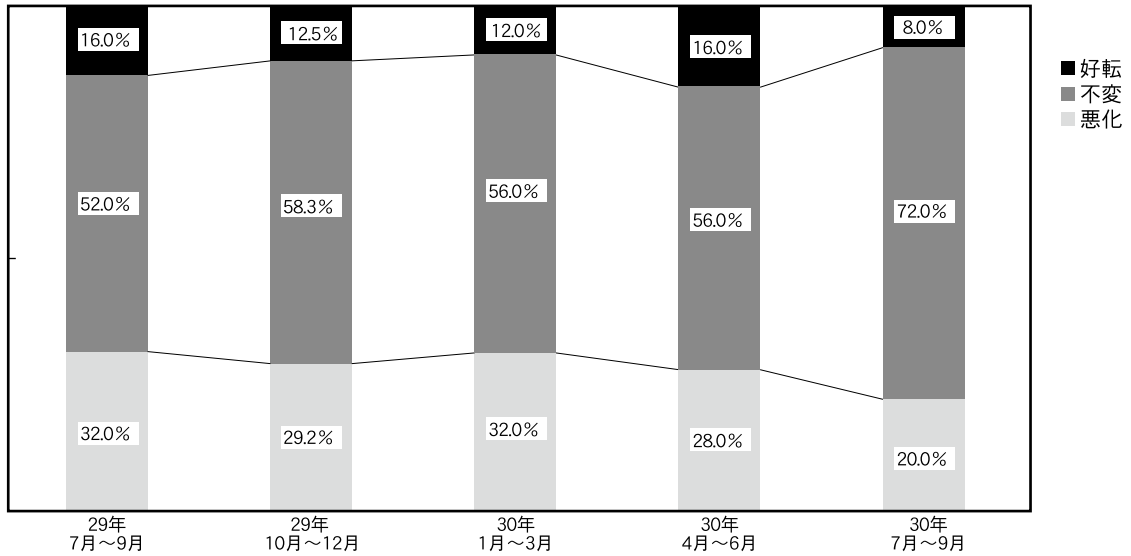
② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（2社）と減少している（前期比▲2社）。

「不変」は72.0%（18社）と増加（前期比+4社）、「悪化」は20.0%（5社）と減少している（前期比▲2社）。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

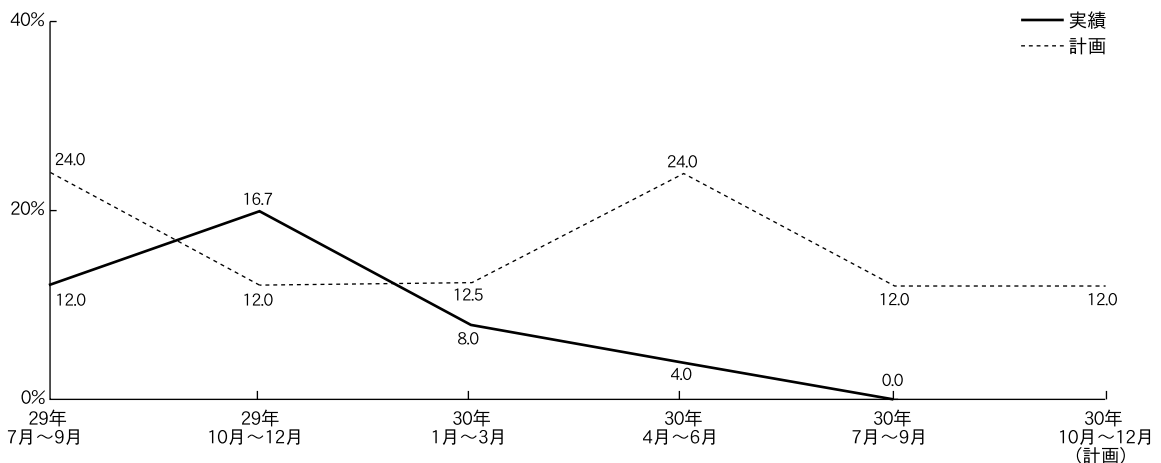


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は0.0%（0社）であった。

来期の計画については、12.0%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両運搬具」が2件、「建設機械」、「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数24社）

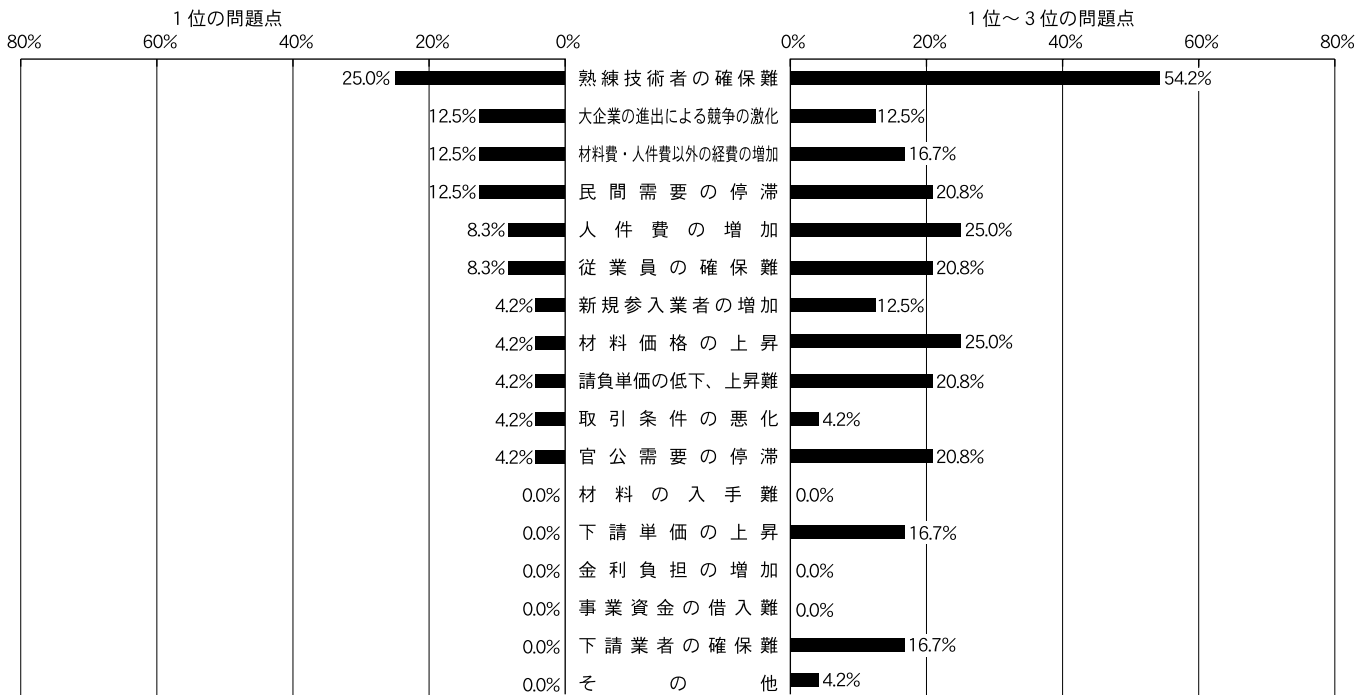
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「熟練技術者の確保難」の25.0%（6社）であり、2番目に多かったのは、「大企業の進出による競争の激化」、「材料費・人件費以外の経費の増加」、「民間需要の停滞」の12.5%（3社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「熟練技術者の確保難」の54.2%（13社）であり、2番目に多かったのは、「人件費の増加」、「材料価格の上昇」の25.0%（6社）である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	4	16.0
設備工事業	2	8.0
合計	25	100.0

従業員規模別

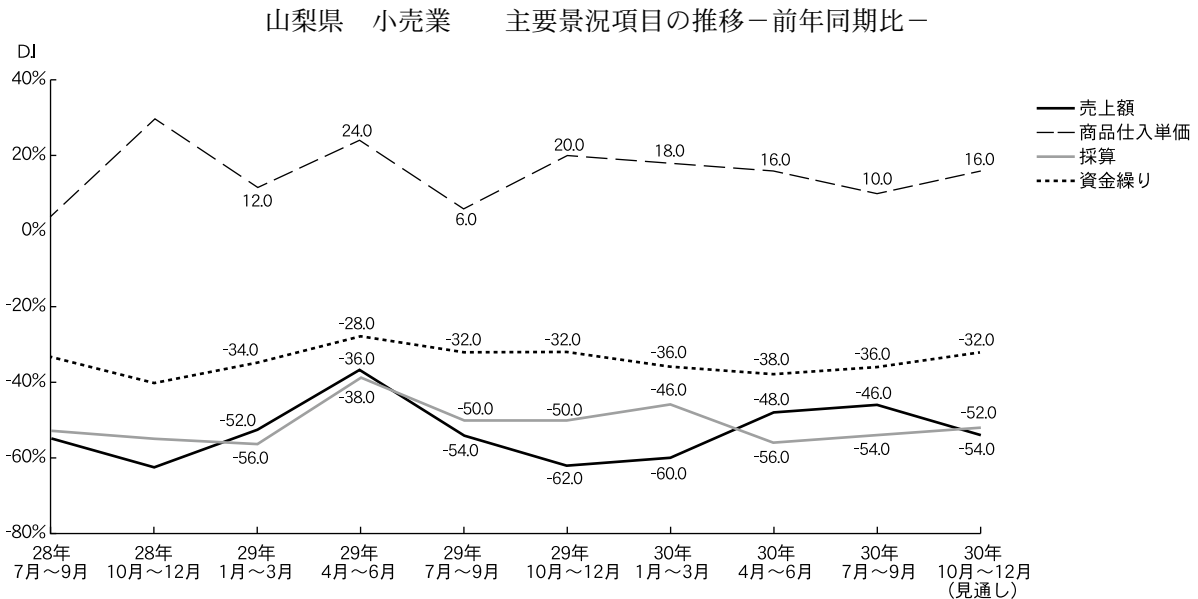
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(%)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	7	28.0	8	32.0
6人～10人以下	4	16.0	4	16.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲46.0と前期比で2.0ポイント改善している。一方、来期は▲54.0と悪化する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期は10.0と前期比で6.0ポイント低下（改善）している。来期は16.0と上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲54.0と前期比で2.0ポイント改善している。来期は▲52.0と更に改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲36.0と前期比で2ポイント改善している。来期は▲32.0と更に改善する見通しである。

今期は、全てのD Iが改善している。来期は、売上額D I、商品仕入単価D Iが悪化する見通しである。

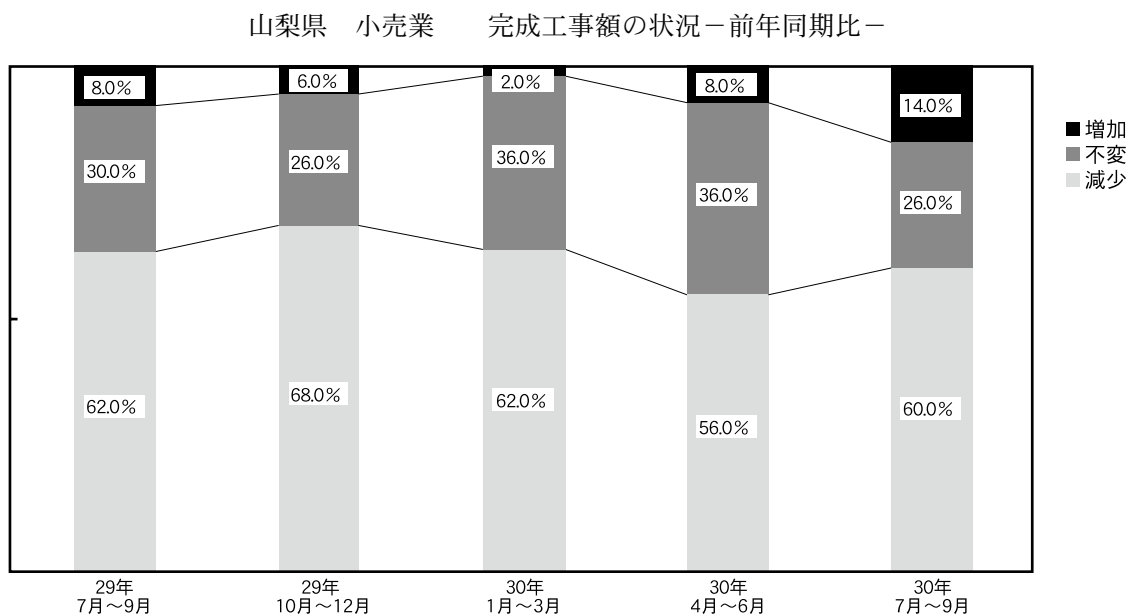


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、14.0%（7社）と増加している（前期比+3社）。

「不変」は26.0%（13社）と減少（前期比▲5社）、「減少」は60.0%（30社）と増加している（前期比+2社）。



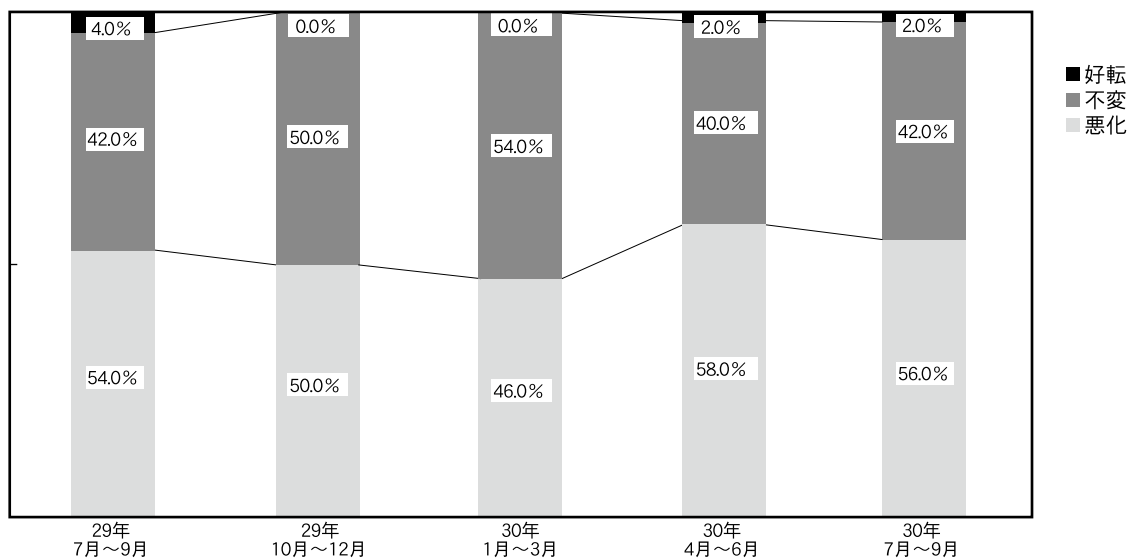
② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、2.0%（1社）と横ばい。

「不変」は42.0%（21社）と増加し（前期比+1社）、「悪化」は、56.0%（28社）と減少している（前期比▲1社）。

山梨県 小売業 採算の状況—前年同期比—

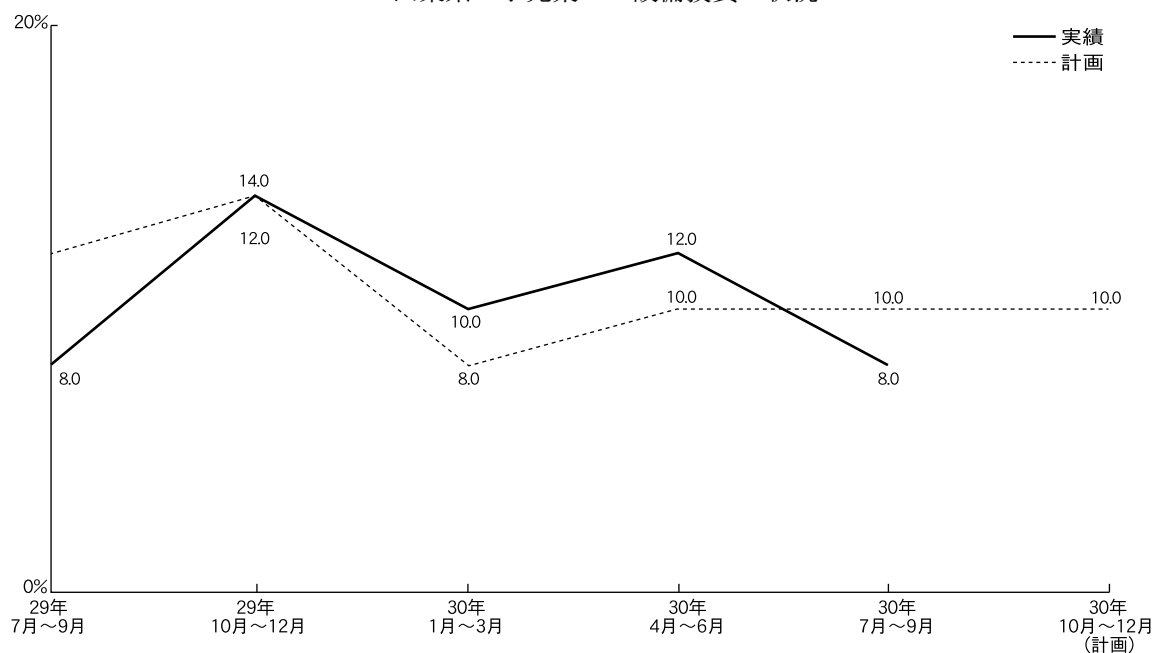


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.0%（4社）であった。その設備投資の内容は、「その他」が2件、「店舗」、「車両・運搬具」が1件ずつであった。

来期の計画については、10.0%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「OA機器」が3件、「販売設備」、「その他」が2件ずつ、「店舗」、「車両・運搬具」、「付帯施設」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

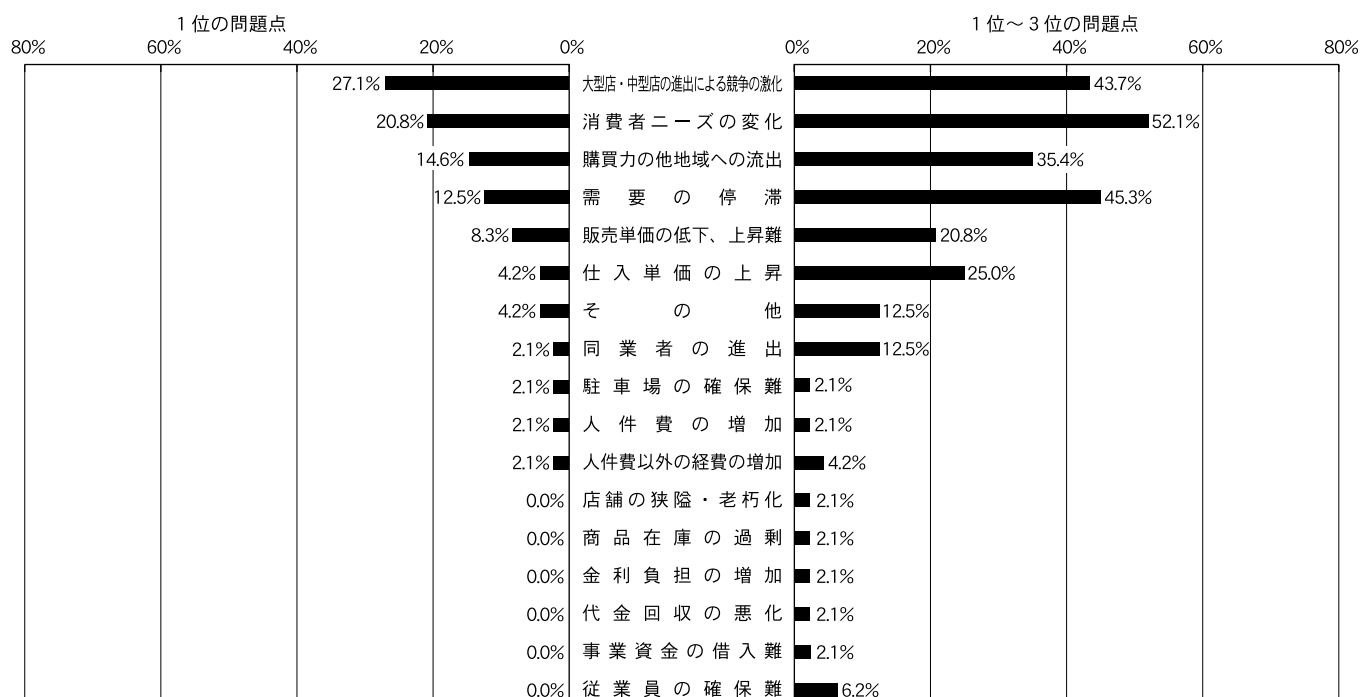
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の27.1%（13社）であり、2番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の20.8%（10社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の52.1%（25社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の45.8%（22社）である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	24.0
飲食物品小売業	17	34.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	15	30.0
合計	50	100.0

従業員規模別

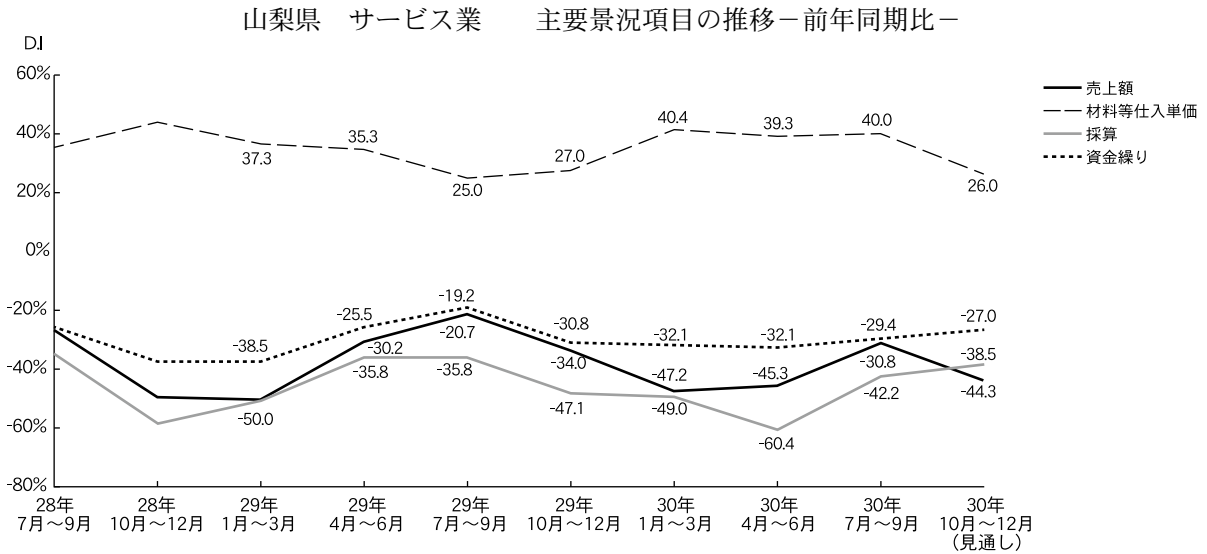
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	45	90.0	39	78.0
3人～5人以下	5	10.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲30.8と前期比で14.5ポイント改善している。一方、来期は▲44.3と悪化する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は40.0と前期比で0.7ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は26.0と低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲42.2と前期比で18.2ポイント改善している。来期は▲38.5と更に改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲29.4と前期比で2.7ポイント改善している。来期は▲27.0と更に改善する見通しである。

今期は、材料仕入単価D Iを除いて改善している。来期は、売上額D Iを除いて改善する見通しである。

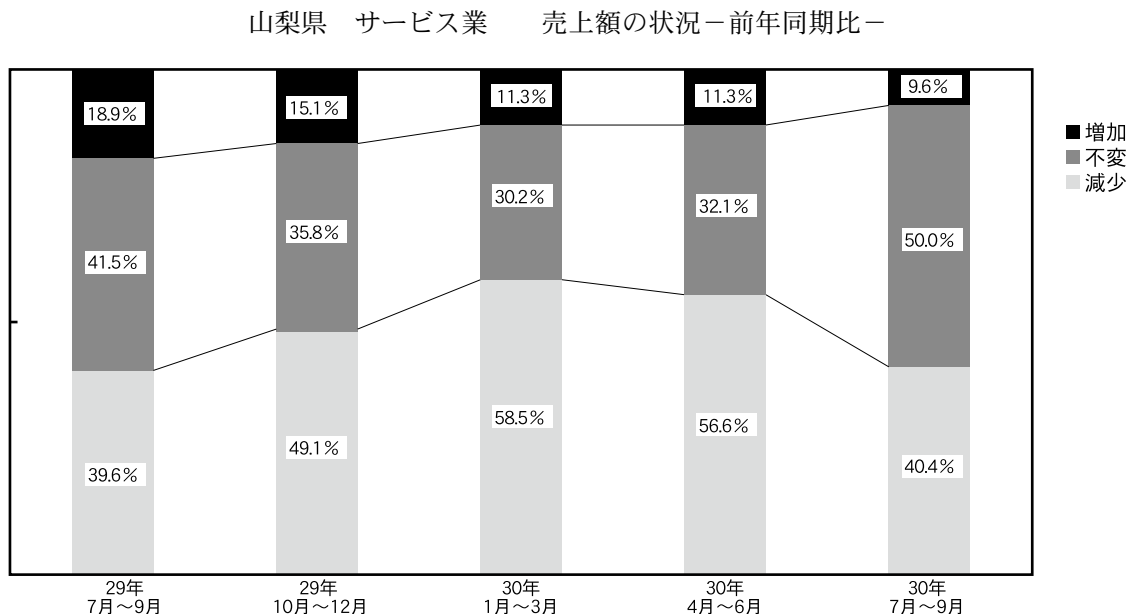


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数52社（前回 53社））

「増加」と答えた企業の割合は、9.6%（5社）と減少している（前期比▲1社）。

「不変」は50.0%（26社）と増加（前期比+9社）、「減少」は40.4%（21社）と減少している（前期比▲9社）。



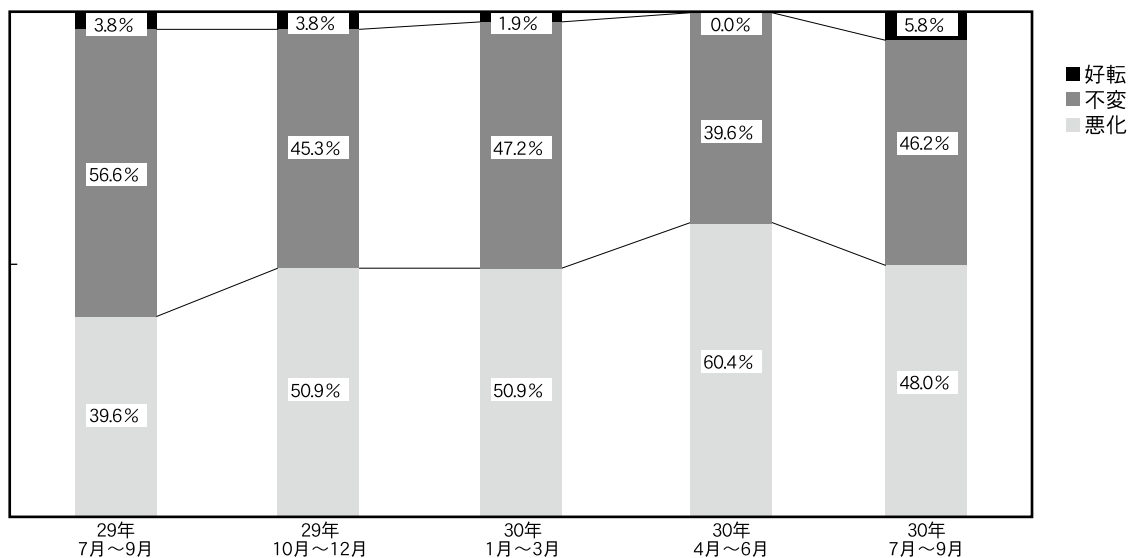
② 採算（採算D I の内容（回答企業数52社（前回 53社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.8%（3社）と増加している（前期比+3社）。

「不変」は46.2%（24社）と増加し（前期比+3社）、「悪化」は48.0%（25社）と減少している（前期比▲7社）。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

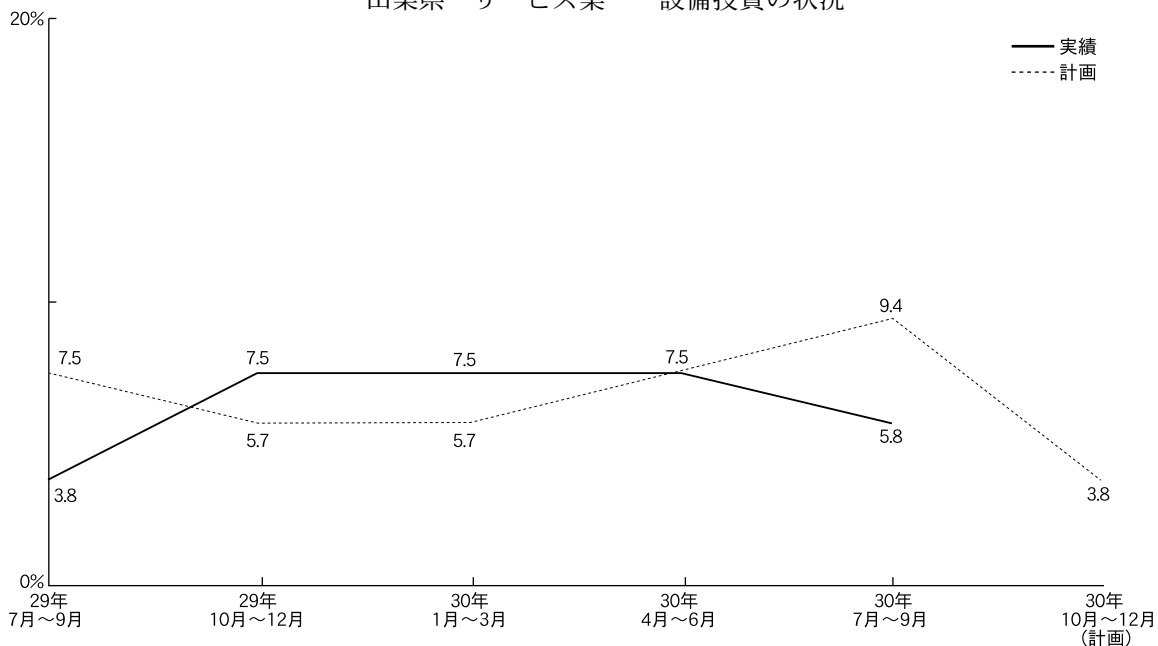


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数52社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.8%（3社）であった。その設備投資の内容は、「建物」が2件、「サービス」が1件であった。

来期の計画については、3.8%（2社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「付帯施設」が1件になる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

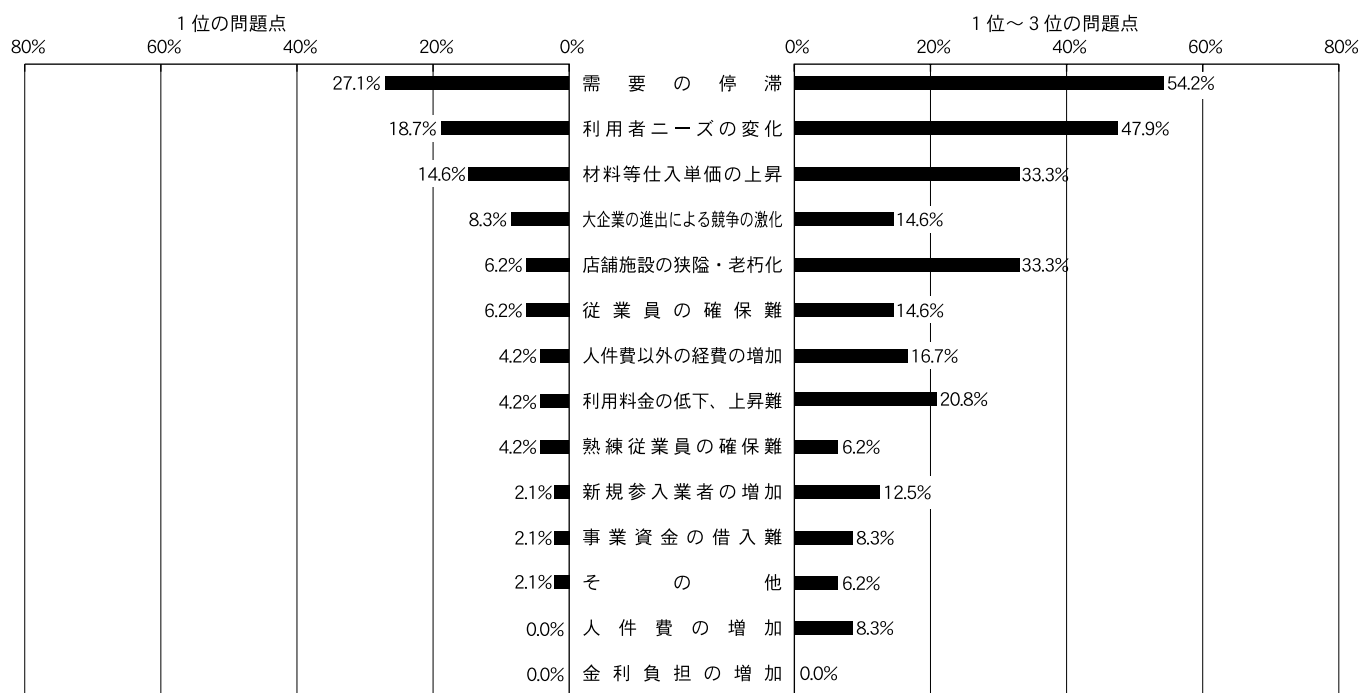
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の27.1%（13社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の18.7%（9社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の54.2%（26社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の47.9%（23社）である。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	18	34.6
宿泊業	7	13.5
運送業	2	3.8
自動車整備業	3	5.8
洗濯・理美容業	19	36.5
その他のサービス業	3	5.8
合計	52	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	44	84.6	40	76.9
3人～5人以下	8	15.4	12	23.1
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	52	100.0	52	100.0